

商経学部地元再発見コンテスト 2014 受賞アイデア一覧

■商経学部最優秀賞（奨学金 10 万円）

プラン名	「内山和紙とフラワーのナチュラルウェディング in 木島平」
受賞者	長野女子高等学校 2 年 鈴木衣織さん、外山絢弓さん
地元再発見	①『かみすき屋』（伝統の内山和紙づくりを体験できる家） ②木島平やまびこの丘公園（約 1,000 種、3 万株の花が咲き誇る木島平村のフラワーガーデン）
地元活性化の方法 ※応募プランの概要	<p>長野県木島平村は江戸時代より優秀な障子紙として知られてきた「内山紙」の発祥の地である。しかし、木島平村は過疎化が著しく自治体としても存亡の危機にさらされている。素晴らしい伝統が消えてしまうのは悲しいことであり、普段は閑散としているフラワーガーデンを見るのも寂しいと感じる。</p> <p>そこで、木島平村の“自然劇場”とその良さを感じることが出来る“和紙”と“フラワーガーデン”を掛け合わせ、且つ過疎化解消につながるようなプランはないだろうかと考え、今回、村を挙げてのナチュラルウェディングを企画した。</p> <p>色とりどりの花々に囲まれたフラワーガーデンにて、和紙のウェディングドレスを身にまとって挙式を行う。①の『かみすき屋』では和紙のウェディングは製作していないが、「和紙のブーケ」は作っている。また、「和紙のウェディング」は製作することが可能だ（ex.美濃和紙）。そして、この和紙固有の温かさと、他に類を見ない純白のナチュラル素材のドレスは、②のフラワーガーデンに映えることは間違いないはずだ。</p> <p>このナチュラルウェディングを実現することで、木島平村をアピールすることはもちろん、ここで挙式を挙げたカップルが木島平村に移住・定住してくれば、過疎化解消につながるかもしれない。伝統産業のリバイバルと地方結婚ビジネスと地域活性化につながれば良いと考える。</p>
講評又は受賞にあたってのポイント	過疎化する地元の人を引き寄せ、移住・定住させるため、地元の伝統的な和紙産業と公園（フラワーガーデン）をうまく結びつけたウェディングビジネスの提案をしている。紙漉きや和紙のウェディングドレス作り体験を上手に映像表現している点も高い評価につながった。

■商経学部優秀賞（奨学金 5 万円）2 点

<1>

プラン名	「レタスの産地を守る新たな実践」
受賞者	静岡県立富岳館高等学校 3 年 成島浩暉さん、内藤黎さん、佐野幹太さん、今淵友里弥さん、帖地一樹さん
地元再発見	温室を使ったレタス栽培と自ら開発した「AHX チップ」
地元活性化の方法 ※応募プランの概要	静岡県富士宮市では温室を使ったレタス栽培が行われているが、地球温暖化により夏季のレタスの収量や品質が低下している。そこで、環境ストレスに強いキノ

	<p>コから抽出した成長調整物質「アザヒポキサンチン (AHX)」を活用して高温に負けないレタスを作ることができないかと考えた。</p> <p>AHX を地元製紙業の廃材・ペーパースラッジを炭化させたものに浸漬させた「AHX チップ」を考案・開発し、高温ストレス下でレタス栽培を行ってみた。AHX チップにより高温下でのレタスの生存率、栽培初期の栄養成長が高まり、多量のベビーリーフ（栽培初期の葉）を収穫できた。AHX チップはエコ資材であり、夏場のファン使用を抑えて栽培できるため、地球温暖化防止にも貢献できる。</p> <p>農協や農家と意見交換して、地域のレタス農家へ AHX チップの試験導入も行われ、多量のベビーリーフを収穫できた。チップは酪農の糞尿や水分を吸収し、堆肥化を促進、高温に負けない堆肥を作ることができるので、地域の酪農家への展開も考えられる。</p>
講評又は受賞にあたってのポイント	<p>地元の農産物生産に直接寄与する実践的提案である。データに基づいた提案内容と取り組みは具体的であり優れている。地元製紙業の廃材を有効利用して開発したチップの有効性を、地球環境問題とも絡めてわかりやすく説明しているのがよい。</p>

<2>

プラン名	「オーチャード・ウェディング」
受賞者	青森県立名久井農業高等学校 3年 野田寿樹さん、佐藤晴香さん、四戸美希さん、葛形小雪さん、松橋奈美さん、種市雪菜さん、佐々木愛さん
地元再発見	<p>①青森県南部町の果樹地帯の春の景色（リンゴ、サクランボ、モモ、ウメ、アンズ、スモモなどの花）</p> <p>②果樹地帯の夏秋の景色（初夏のサクランボ、ウメから秋のリンゴまでたわわに実る果実、ブルーベリーの紅葉）</p>
地元活性化の方法 ※応募プランの概要	<p>青森県南部町はフルーツの町と呼ばれている。しかし、農家の高齢化による耕作放棄の課題がある。そこで、耕作放棄地となった果樹園を結婚式の披露宴やパーティー会場などに活用するアイデアを考えた。</p> <p>美しい花やたわわに実ったリンゴの下で行う結婚式は一生の思い出になる。引き出物には地域の果樹園から採れたての果物が贈られる。名久井農業高校では代々、白いリンゴと黄色いサクランボを栽培している。紅白のリンゴと幸せの黄色いサクランボは最高の引き出物となる。農村ならではの美味しい郷土料理での「おもてなし」、フルーツたっぷりのウェディングケーキも魅力である。透明屋根の大型ハウスがあるので雨でも支障がない。</p> <p>これらを若者が集まり企画運営することで、農村離れにも歯止めがきく。このアイデアの商品は景色である。景色を維持するための果樹園の管理はリタイアした農家のみなさんをお願いする。ベテラン農家さんの生き甲斐にもなる。町の業者に依頼する食事、駅からの輸送や宿泊など他産業の活性化にもつながる。当たり前だと思っていた農村の絶景を再発見することで、地域活性化も図れる新しいビジネスが誕生する。</p>
講評又は受賞にあたってのポイント	<p>地元の様々な資源を使ったアイデアをどのようにしたら実現できるかを丁寧に考察している。「自分たちにとって当たり前の光景が、地域外の人からはどのように見えるだろうか」という、顧客側の視点で構想を練っている点を高く評価する。</p>

	映像によるプレゼンテーションもインパクトがありよくまとまっている。
--	-----------------------------------

■審査員推薦賞（奨学金 2 万円）3 点

<1>

プラン名	「色鮮やかなチューリップの花びらの色素を使ったニット」
受賞者	新潟県立五泉高等学校 3 年 阿部紗織さん、高澤綾花さん
地元再発見	①チューリップ（全国 1 位のチューリップ切花の生産の新潟県の中でも五泉市は栽培に適した有数の産地） ②ニット（五泉市は、羽二重を製織する織物産地から、戦後丸編メリアスを中心としたニット産地となった）

<2>

プラン名	「五泉三美人を食し咲花温泉につかり美容と健康を高めよう」
受賞者	新潟県立五泉高等学校 3 年 阪詰美咲さん、倉林裕美さん
地元再発見	①五泉三美人（里芋（帛乙女）、れんこん（五泉美人）、ねぎ（やわ肌ねぎ）の五泉を代表するブランド野菜） ②咲花温泉（新潟県下でも有数の豊富な湯量を誇る美肌に効果のある泉質の温泉） ③花蒸し玉手箱（咲花温泉の各宿が五泉市内の食材、水、地酒などを使って蒸しあげる名物料理）

<3>

プラン名	「みんなで食べよう！ゆめの食卓 in 児島」
受賞者	岡山県立倉敷鷺羽高等学校 2 年 佐藤稜恭さん、河合郁弥さん、岩崎貴弘さん、小笠原拓真さん、合田竜平さん
地元再発見	倉敷市児島の人口減少や超高齢化（お年寄りの「ひとりの食卓は寂しい」という思い）

■選外佳作（図書カード 5 千円相当）9 点

プラン名・受賞者	「浮島の自然で、観光も潤う」 富士市立高等学校 3 年 長沢隆広さん
プラン名・受賞者	「迦葉山を群馬の高尾山にするプロジェクト」 群馬県立利根実業高等学校 3 年 吉野佳純さん、中村純子さん、2 年 石井葵さん、松井田夏帆さん、湯本夏帆さん、丸山柚香さん
プラン名・受賞者	「菊をたくさんの人に知ってもらうために「菊を食す、見る、作る」」 北海道北見商業高等学校 1 年 國田かなえさん、塚本安友果さん、馬淵麻衣さん、橋本陽乃さん

プラン名・受賞者	「教会の写真コンテストの開催や教会のステンドグラスと長崎のガラス細工を組み合わせた商品で長崎の教会を知ってもらう」
	長崎市立長崎商業高等学校 学年未記載 上戸瑞月さん
プラン名・受賞者	「スタバで斬新な味を！スキー場に新たな魅力」
	長野女子高等学校 学年未記載 宮崎千佳さん、柳原成良さん
プラン名・受賞者	「「太宰治の三島の桜桃忌」と「三島ホテルまつり」で、スイーツを食す。」
	静岡県立三島北高等学校 郷土研究部 2年 井田晴香さん、阿部加奈恵さん、長田有加さん、星野かほりさん、1年 鮫島洋美さん、平山稜さん、西山そよかさん、中村嵩さん、坂本健さん
プラン名・受賞者	「伝統を感じる・文化に触れる～日本一の村で感じる初夏の風物詩」
	岐阜県立益田清風高等学校 3年 桂川みのりさん、小林佳奈さん、船渡帆乃香さん
プラン名・受賞者	「天竜峡に来たらここは絶対行っところ！！と思える場所」
	飯田女子高等学校 学年未記載 木下幸美さん
プラン名・受賞者	「ニラの魅力発見！」
	栃木県立宇都宮白楊高等学校 3年 小林裕一郎さん

■ 総評

「地元再発見コンテスト」審査委員会

商経学部「地元再発見コンテスト 2014」に応募いただきました高校生の皆さんに御礼申し上げます。慎重審査を経て、商経学部最優秀賞、商経学部優秀賞、審査員推薦賞を決定いたしました。受賞された高校生の皆さん、おめでとうございます。

「地元再発見コンテスト 2014」では、地元の人々の日常生活を支え元気にするために“地元の自慢できる「もの」や「こと」”を活用したビジネスプランを、若い感性と新鮮な問題意識で考えて提案してもらいました。今回、全国の高校生から 162 件の応募作品（ビジネスプラン）がありました。多くの若い高校生の皆さんからの応募を感謝いたします。

商経学部の教員 14 名による厳正な 1 次審査によって、2 次審査に進む 15 件の作品を選出いたしました。1 次審査を通過した方には、5 分間の映像によるプレゼンテーションを提出していただき、商経学部学生・教職員 393 名による評価を行い、最終的に地元再発見コンテスト審査委員会によって入賞者を決定いたしました。

本コンテストは、高校生に地元の身近な何気ないモノやコトの中から地元の魅力を探し出すこと、それを自分の言葉でまとめてみることに、調べたことを基にして地元を元気にするビジネスプランを考えて積極的に提案すること、を目的としたものです。応募いただいた作品は、どれも手作りの温かさが感じられ、また高校生ならではの視点が光っており、ひとつひとつから参加生徒の個性が伝わってきて引き込まれました。高校生の地元を愛する気持ち、郷土文化への愛着とともにビジネス開発への意欲も強く感じられるものでした。

映像によるプレゼンテーションは、企画の内容をよりよく伝えようと優れた表現力と感性で工夫されており素晴らしいものばかりでした。商経学部学生・教職員は感動しながら観させていただきました。

地方が元気になることが日本の明るい将来につながります。高校生の皆さんにとって、地元への愛着を持って地元を見つめ直し、地元の優れたモノやコトを再発見する良い機会となったのではないのでしょうか。さらに自分の考えを多くの人に伝える力（言語活動の充実）の育成にも、このコンテストが役に立てば幸いです。今後とも、高校生の皆さんが、多様な地元の文化に若者ならではの関心で迫り、地元を元気にする活動に参加されることを期待しています。